

最近の（私の）婚活事情

第8期 OG 奥野 朱子

2016年、世の中では様々なことが起った。銀行員という立場上、私が特に印象に残っているのは1月のチャイナショック、Brexit、としてトランプ次期大統領の当選、などであろうか。まさに申年にふさわしい、騒々しい市場環境であったと思う。

...などと真面目なことを書いた。なぜこんなことを言い出したか。世の中では様々なことがあった一方で、私のプライベートは全く変化のない1年だったからである。ここでいうプライベートとは（察しの通り）主に恋愛方面のことを指す。2017年の1月からドラマ化される東京タラレバ娘という漫画（このOB・OG会誌が皆様の手元に届くころには何話か放送されていると思いますが）は2013年に2020年のオリンピック開催が東京に決定した後、作者である東村アキコの独身女性の友人達が次々と「1人で（または親と）東京オリンピックを見るなんて嫌だ」と言い出したことをきっかけに描かれたそう。私も東京オリンピック開催が決定した直後、同じことを思った。7年後、この先どうしたらいいかわからないと毎日将来に不安を感じながら、悶々とした日々を過ごし、一人暮らしの家で東京オリンピックを見て、年齢とともにゆるみきった涙腺と共に選手たちの活躍に涙するのだろう...。そんな自分を容易に想像することができた。...恐怖である。私が将来に不安を感じる原因はほかにもある。私は仕事柄、お客様の将来のことを考えて資産運用や相続について銀行に何ができるか考え、提案を行っている。そうするうちに自分の老後への心配が日に日に膨らんでいくのである。読者も、独身女性の老後を考えてみてほしい。...恐怖である。この恐怖を拭い去る方法の1つが結婚であると思う。自分が稼げなくなったとき、精神的に辛くなったとき、支えてくれるパートナーがいる。子供がいれば、老後、気にかけてくれる存在もできる。結婚は、先の見えない将来へのリスクヘッジの1つなのである。その為この数年、私は婚活に力をいれていた。今回小野ゼミ同期がOB・OG会幹事であるにも関わらず私は参加できない為、OB・OG会に行っていればネタにしていたであろう婚活の中で出会った様々なタイプの男性を紹介していこうと思う。

◆その1：職業HERO

ここ数年で一番キャラが濃かったのはHEROである。彼とは梅田（大阪にある繁華街）の街コンで出会った。男女ともに同性の友達2人で参加する形式の街コンだったのだが、彼らとはその街コンの一番初めの組み合わせであった。とりあえず紹介カード（ニックネーム、趣味など簡単なことしか記入しない）を見せ合いながら相手のことを探っていた私は、「お仕事なにされてるんですか？」と聞いた。すると彼は「仕

事？ ん～まあ、HERO かな！」と渾身のドヤ顔で返してきたのである。爆笑する彼の友人。半笑いをしながら目は笑っていない私の友達。笑顔を貼り付けたまま固まる私…。怒りの沸点の低い私は罵倒したい気持ちを抑えながら作り笑いを貼り付け、もう少し素性について探ってみた。するとどうやら2人とも HERO で、しかも資格が必要な HERO らしい。私と友達は顔を見合わせ、警戒した。その日一緒に参加していた友達は検事をしていた。もしや HERO とはキムタク主演のドラマになぞらえていて、2人とも検事なのではないか？ 友達は同業者なのではないかと焦っていた（友達はその日、弁護士事務所の事務という設定で参加していた）。「もしかして…〇〇？」と色々探っていた結果、結局彼らは検事などではなく学校の先生だということが判明した。どうやら子供達を守る HERO と言いたかったようである。なんじゃそりゃ？ ここまでひっぱっついてそんなオチ？ と読者のみなさんは思われるだろう。実際に喋っていた私はその100倍思っていた。殴りたい、と。そんなことを思った彼だったがその後 LINE で連絡が来て一度だけご飯に行くことになったのだがその時も突っ込みどころ満載の人であった。ここでは長くなってしまうので割愛するが、どうしてもという方がいらっしゃればメールか何かで彼とのご飯話を教えようかと思う（多分）。

◆その2：おやつは MOS セット

彼とは親戚の伯母さんの紹介で、軽いお見合いという形で知り合った。LINE で何度かやりとりし、とりあえずご飯行きましょうということで三宮（神戸）の彼行きつけの焼鳥屋に行くことになり、駅で待ち合わせるようになった。社会人アメフトチームに所属しているという前情報と彼の LINE のアイコンから、なかなか立派な体格を持っているということは想像していたが、当日会った彼は想像以上だった。「でかい」、私は思った。正直、初めは彼がお見合い相手だと信じたくなくて待ち合わせ場所で気づかないフリして一度スルーした。しかしやはり彼が私のお見合い相手であった。とりあえずお店に移動し、クーラー前に陣取った彼は「あーほんま暑いなあ！ 俺ほんま体でかいからな！ めっちゃ汗かくねん！ 自分（著者のこと）細いなあ！」とガヤガヤと喋りだした。そして自分は身長 170 センチ、体重 114 キロであることをわざわざ言ってきたのである。アメフトをやっているため、体格が立派なのはわかるが、その身長でその体重はただのデブなのでは？ と思ったがその日はまあ当たりさわりのない会話をして過ごすことができた。2回目彼と会ったときはドライブデートであった。車は彼の母のものであったが車内は彼の性格や雰囲気通り、アバクロの香水の匂いが充満してクラブミュージックがガンガンなっていた。その日、車で映画を見に行くことになった。映画まで少し時間があったので近くのショッピングモールをうろうろしていると、彼はお昼を食べてきたというのに小腹がすいてきたと言うのだ。どこかのカフェに入るか提案したところ、彼はモスバーガーを食べたいと言い出した。お昼を普通に食べ、そして映画を見るときに GODIVA のショコリキサーを飲もうねという話をしていたにも関わらずおやつにモスバーガー（しかもセット）を食べたのである。その様子を見て私はげんなりし（そのほかにも幻滅することは多々あったのだが）その後、ニコニコして愛想を振りまくことをやめて素の自分で接した私に彼から連絡はくることはなかった。小食な男性は嫌だ、よく食べる人がいい、と思っていた私だが、何事にも限度があるということ学んだ男性

であった。伯母からの話でその後、彼は違う人とお見合いし、結婚したということを知った。

◆その3：喋らない弁護士

厳密には弁護士ではなく、弁護士事務所に内定をもらっている司法修習生であった彼は、すでに一度別の合コンで会ったことがあった。しかし、あまり喋れなかったのもう一度会いましょう、ということでメンバーを入れ替えて合コンすることになったのだ。3対3の合コンで、相手は全員司法修習生という優秀な男性陣であった。見た目はいかにも勉強ばかりしてきました、という風貌だったが人間は見た目ではない。中身が重要である。我々女性陣は頑張った。何度も何度も会話のボールを投げ続けた。しかし彼らはボールをとってくれはするものの、一向に返してくれないのである。続かない会話...増えていく沈黙...。お前これから法廷で喋る仕事してくんじゃねえのかよ！ と叫びたくなる合コンであった。

◆その4：命削る耳鼻科

彼と出会ったのは4対4の研修医との合コンであった。久々に「俺、医者やけど」という調子にのった雰囲気を出してあり、はじめからいけすかないやつであった。それで女性が喜ぶと思っているのか、アルファロメオに乗ってきたことを自慢し車のカギを見せていたが（親の金で買ったものを自慢してなにが楽しいのか）、そのせいでお酒がのめず、1杯目からソフトドリンクを飲んでいる残念な人であった。そんな彼が合コンの帰り際に行った一言が突っ込みどころ満載だったので紹介しておきたい。男性陣が2次会行こうというノリになっていたところ、「俺明日当直やし次（2次会）行くのやめとくわ〜」と言った友達がいた。それに対し彼は「忙しくても、時間割いて、命削って仕事やっていくのが医者ちゃうんか」と一見格好いい感じで言ったのである。いや、忙しいって、仕事が激務でも患者さん救う為に働くのは格好いいけどお前は飲みに行ってるだけやん。ほんでお前がなるであろう耳鼻科って、別に激務ちゃうやん。ほんでお前は明日当直ちゃうやん。なんやその格好いいこと言ったったみたいなドヤ顔。私は頭の中で突っ込みまくりながら華麗に2次会をパスした。その後の女子会で彼のあだ名が「アルファロメオ」であったことは言うまでもない。

一人ひとりを詳細に書きすぎて、もう他の人については書けなくなってしまった。現在の私の婚活事情は、というと、出会えども出会えども特に連絡が続かず何も発展しないという状況が数年続くことに疲れちゃってしまい、婚活休止中である。半分諦めを感じており、老後、完全介護付きの老人ホームに入れるように資産運用に精をだす毎日である。そんなことをお客さまの前で話していたら、つい先日鎌倉に行ったついでにお土産を買ってきたと縁結びのお守りを買ってきてくれたお客さまがいて、本当に申し訳ない気持ちになった。こんな風に、人のことを茶化したり馬鹿にしたりしているから駄目なんだろうなあと思いつつ、努力の方向性がわからない私に対して優しさをくれる人のおかげで毎日を過ごすことができていると感じた1年であった。